

2. 概 要

2-1 入港船舶の概要

気仙沼港入港船舶前年比較表

内・外航船別		平成22年 (A)	構成比 (%)	平成21年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	隻 数	4,822	100.0	5,022	△ 200	96.0
	総トン数	1,373,811	100.0	1,457,388	△ 83,577	94.3
外 航 船	隻 数	11	0.2	4	7	275.0
	総トン数	15,911	1.2	6,216	9,695	256.0
内 航 船	隻 数	4,811	99.8	5,018	△ 207	95.9
	総トン数	1,357,900	98.8	1,451,172	△ 93,272	93.6

平成22年における気仙沼港の入港船舶は、隻数が4,822、総トン数が1,373,811総トンであり、前年と比較して、隻数で200隻(4.0%)減少し、総トン数では83,577総トン(5.7%)減少している。

トン数階級別では、5総トン以上500総トン未満の船型が4,693隻と最も多く、全体の97.3%を占めている。

(1) 外航船

外航船は、隻数で11隻と前年より7隻(275.0%)増加し、総トン数では15,911トンと9,695総トン(256.0%)増加している。

トン数階級別では、1,000総トン以上3,000総トン未満の船型が6隻と最も多く、外航船の54.5%を占めている。

(2) 内航船

内航船は、隻数で4,811隻と前年より207隻(4.1%)減少し、総トン数では1,357,900総トンと93,272総トン(6.4%)減少している。

トン数階級別では、5総トン以上500総トン未満の船型が4,692隻と最も多く、内航船の97.5%を占めている。

2-2 海上出入貨物の概要

気仙沼港海上出入貨物前年比較表

区 分		平成22年 (A)	構成比 (%)	平成21年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計		849,237	100.0	817,431	31,806	103.9
外貨貨物	輸 出	3,484	0.4	2,500	984	—
	輸 入	0	0.0	0	0	—
	計	3,484	0.4	2,500	984	—
内貨貨物	移 出	295,565	34.8	285,644	9,921	103.5
	移 入	550,188	64.8	529,287	20,901	103.9
	計	845,753	99.6	814,931	30,822	103.8

平成22年における気仙沼港の取扱貨物量は849,237トンであり、前年と比較して31,806トン(3.9%)増加している。

そのうち、外貨貨物は3,484トンで全体の0.4%、内貨貨物は817,431トンで全体の99.6%となっている。

気仙沼港主要取扱貨物前年比較表(81品目)

品 種	平成22年 (A)	構成比 (%)	平成21年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	849,237	100.0	817,431	31,806	103.9
999 自航(フェリー)	577,180	68.0	556,990	20,190	103.6
311 重 油	112,465	13.2	116,236	△ 3,771	96.8
321 石 油 製 品	97,700	11.5	93,120	4,580	104.9
211 非 金 属 鉱 物	58,408	6.9	48,585	9,823	120.2
081 水 産 品	3,484	0.4	2,500	984	139.4

取扱貨物については、自航(フェリー)が取扱貨物量全体の68.0%を占め、前年と比較して20,190トン(3.6%)増加している。

自航を除いた主な品種は、重油、石油製品、非金属鉱物であり、それらで取扱貨物量全体の32.0%を占めている。

(1) 輸 出

気仙沼港主要輸出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成22年 (A)	構成比 (%)	平成21年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	3,484	—	2,500	984	—
081 水 産 品	3,484	—	0	3,484	—

輸出は 3,484 トンで、貨物量全体の 0.4%であり、前年と比較して 984 トン増加している。
品種は、水産品である。

(2) 輸 入

気仙沼港主要輸入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成22年 (A)	構成比 (%)	平成21年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	0	—	0	0	—

輸入は 0 トンで、貨物量全体の 0.0%であり、前年も同様である。

(3) 移 出

気仙沼港主要移出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成22年 (A)	構成比 (%)	平成21年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	295,565	100.0	285,644	9,921	103.5
999 自航（フェリー）	288,470	97.6	287,200	1,270	100.4
311 重 油	7,095	2.4	7,444	△ 349	—

移出は 295,565 トンで、貨物量全体の 34.8%を占めており、前年と比較して 9,921 トン（3.5%）増加している。そのうち、自航（フェリー）が移出全体の 97.6%となっており、前年と比較して 1,270 トン（0.4%）増加している。

自航を除いた主な品種は重油であり、移出全体の 2.4%を占めている。

(4) 移 入

気仙沼港主要移入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成22年 (A)	構成比 (%)	平成21年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	550,188	100.0	529,287	20,901	103.9
999 自航 (フェリー)	288,710	52.5	278,790	9,920	103.6
311 重 油	105,370	19.2	108,792	△ 3,422	96.9
321 石 油 製 品	97,700	17.7	93,120	4,580	104.9
211 非 金 属 鉱 物	58,408	10.6	48,585	9,823	120.2

移入は 550,188 トンで、貨物量全体の 64.8%を占めており、前年と比較して 20,901 トン（3.9%）増加している。

そのうち、自航（フェリー）が移入全体の 52.5%となっており、前年と比較して 9,920 トン（3.6%）増加している。

自航を除いた主な品種は重油、石油製品、非金属鉱物であり、これらで移入全体の 47.5%を占めている。

2-3 施設利用の概要

(1) 入港船舶（500 総トン以上の船舶）

気仙沼港入港船舶公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭		専用埠頭		公共埠頭の比率 (%)	
	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数	隻数	総トン数
平成22年 (A)	30	33,180	84	76,302	26.3	30.3
平成21年 (B)	63	54,032	86	79,893	42.3	40.3
増減 (A)-(B)	△ 33	△ 20,852	△ 2	△ 3,591	—	—
前年比 (%)	47.6	61.4	97.7	95.5	—	—

入港船舶（500 総トン以上）の係留状況について、公共・専用別にみると、公共埠頭が 30 隻の利用で全体の 30.3%を占めており、前年と比較して 33 隻（52.4%）減少している。専用埠頭については、84 隻で全体の 73.7%を占めており、前年と比較して 2 隻（2.3%）減少している。

総トン数については、公共埠頭が 33,180 総トンで全体の 30.3%を占めており、前年と比較して 28,113 総トン（54.1%）減少している。また、専用埠頭は 76,302 総トンで全体の 69.7%を占めており、前年と比較して 15,104 総トン（16.5%）減少している。

(2) 海上出入貨物

気仙沼港海上出入貨物公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭	専用埠頭	公共埠頭の比率
	(フレート・トン)	(フレート・トン)	(%)
平成22年 (A)	639,072	210,165	75.3
平成21年 (B)	608,075	209,356	74.4
増減 (A)-(B)	30,997	809	—
前年比 (%)	105.1	100.4	—

※ 自航（フェリー）を含んだものである。

取扱貨物量について公共・専用別にみると、公共埠頭が 639,072 トンで全体の 75.3%を占めており、前年と比較して 30,997 トン（5.1%）増加している。

また、専用埠頭については 210,165 トンで全体の 24.7%を占めており、前年と比較して 809 トン（0.4%）増加している。